

令和元年度イノベーション戦略策定事業の成果概要

－ シニア就労事業者支援プラットフォームに関する戦略策定 －

令和2年5月

(一財) 機械システム振興協会

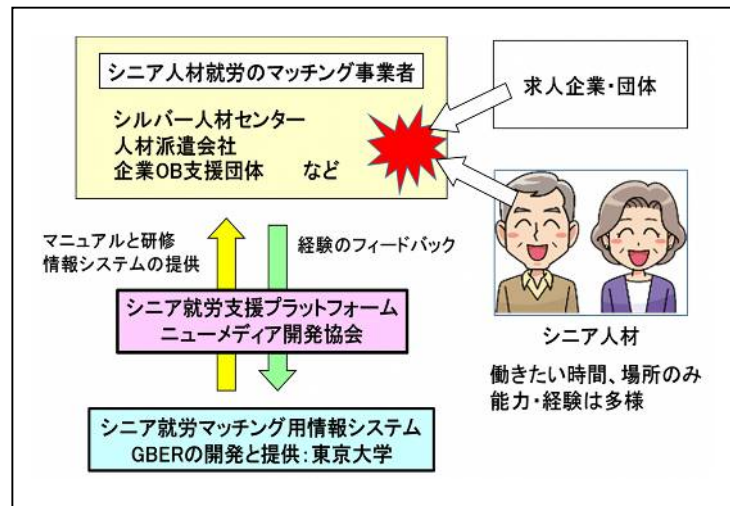
令和元年度イノベーション戦略策定事業の5テーマの1つとして、(一財)ニューメディア開発協会に委託して、「シニア就労事業者支援プラットフォームに関する戦略策定事業」を、次の通り実施しました。

【事業の目的】

我が国において高齢化と労働者不足とが進展する一方、働く意欲があり、経験や知識が豊富で、健康で体力もあるシニア人材が数多く存在し、その就労を支援することが重要となっています。シニア人材就労のマッチングは、全国各地のシルバー人材センター、人材派遣会社などが実施していますが、就労マッチングに情報システムを導入することにより効率化し、就労を促進することが期待されています。

シニア人材の就労においては、個々のシニアが希望する「時間×スキル×場所(空間)」をモザイクの小片のように組み合わせ、雇用する側のニーズに合うように再構成する「モザイク型就労」が必要になります。

このためのマッチング用の情報システム「GBER」を東京大学が開発中ですので、本事業では、GBERを用いたシニア就労支援の戦略を策定しました。



【令和元年度事業の概要と主要成果】

ニューメディア開発協会に、戦略策定委員会及びWGを設置し、学識経験者、シニア就労支援事業者などが参加して、シニア就労のための情報システムのあり方を検討しました。また、熊本地域及び埼玉地域でGBERを用いた実証実験を実施し、シニア人材には情報システムの操作に不慣れな人も多いため、実証実験の中でシニアIT人材(シニア情報生活アドバイザー)がGBERの使い方に関するマニュアルを作成し、シニア人材への操作研修を行いました。その主要な成果は次の通りです。

① 熊本及び埼玉での実証実験結果

GBERの操作研修では、参加者(シニア人材)が初期登録から仕事の申し込みまでを行うことを目標にしていたが、熊本では45%、埼玉では86%の参加者が目標までの操作

ができました。両地域で差が大きかったのは、埼玉ではパソコンクラブメンバーなどのシニアが参加し、熊本では一般のシニアが参加したため、シニアでは情報リテラシーに大きな差があることが明らかになりました。また、両地域で、GBER への評価としては今後利用したいとの意見が多く、シニア IT 人材による操作研修に対しても有意義との高い評価が得られました。

② GBER の普及促進に向けた課題

上記の実証実験により、シニアにも扱いやすい情報システムのあり方に関する多くの知見や管理者（シルバー人材センターなど）の要望が得られ、この結果を東京大学にフィードバックしました。今後、機能面及び運用面で GBER が改善されることが期待されます。また、シニアの情報リテラシーに対するサポートの必要性や GBER を実用システムとして用いる時の個人情報保護などのセキュリティ対策の必要性など GBER の普及促進に向けた課題も明らかにしました。

③ シニア就労促進に向けた課題

シニア就労の促進のためには、情報システムのあり方のみならず、多くの検討課題があることが明らかになりました。具体的には、マッチング業務における多様なメディアの活用法、シニア人材の情報リテラシーギャップ、マッチング機関のマネジメント、求人側の仕事の切り出し方を検討する必要があります。その際、特に、ホワイトカラーOB がその経験を活かした仕事のマッチング、チームによる就業、都市と地方のマッチングなど多くの検討が必要です。

【今後の展開】

令和2年度においては、引き続き（一財）ニューメディア開発協会にイノベーション戦略策定事業を委託して、マッチング機関のマネジメントなどの課題への対策を検討し、シニア人材の就労を促進する戦略を策定することとしております。また、（一財）ニューメディア開発協会においては、令和元年度の成果についてシルバー人材センターなど様々なマッチング機関への普及啓発を図ることとしております。

【問い合わせ先】

イノベーション戦略策定事業全般：（一財）機械システム振興協会 Tel: 03-6848-5036
本調査開発の詳細：（一財）ニューメディア開発協会 Tel: 03-6892-5030